

ジャンボ渡辺の富士山学

(朝日新聞山梨県版に2013年4月18日から2016年3月18日までの間29回連載)



西湖からの富士山

都留文科大学特任教授

渡辺 豊博

目 次

① 「世界文化遺産」への登録	2013年(平成25年)4月18日	1
② 課題解決へ根本的議論を	2013年(平成25年)5月16日	2
③ 海外の世界遺産と決定的違い	2013年(平成25年)6月20日	3
④ 世界遺産決定に立会い	2013年(平成25年)7月11日	4
⑤ 「開発の抑止」へ課題山積	2013年(平成25年)9月5日	5
⑥ 過大で無秩序な登山者数	2013年(平成25年)10月3日	6
⑦ 世界遺産委勧告 低調な対応	2013年(平成25年)10月31日	7
⑧ 本末転倒な入山料徴収議論	2013年(平成25年)11月28日	8
⑨ 世界遺産登録2年目の課題	2014年(平成26年)1月9日	9
⑩ 「水の神」としての信仰	2014年(平成26年)2月6日	10
⑪ 学校教育 どう学び何を体験？	2014年(平成26年)3月6日	11
⑫ 屋久島から見る共通課題	2014年(平成26年)4月10日	12
⑬ トンガリロ国立公園に学ぶ	2014年(平成26年)5月15日	13
⑭ トイレの処理、費用は	2014年(平成26年)6月19日	14
⑮ 「富士塚」ご存じですか	2014年(平成26年)8月7日	15
⑯ 吉田口登山道の整備	2014年(平成26年)9月25日	16
⑰ 御嶽山噴火の教訓	2014年(平成26年)10月30日	17
⑱ 登山者の安全確保 NZでは	2014年(平成26年)12月18日	18
⑲ NPOの活動 米では	2015年(平成27年)2月6日	19
⑳ 人材育成 米の国立公園に学ぶ	2015年(平成27年)3月13日	20
㉑ 50年前の夏休み 海から頂上へ	2015年(平成27年)4月17日	21
㉒ 「神池」に山頂の雪解け水流す	2015年(平成27年)5月22日	22
㉓ 活火山の富士山	2015年(平成27年)6月26日	23
㉔ お金がかかる環境保全	2015年(平成27年)9月4日	24
㉕ 水の恩恵と文化の継承	2015年(平成27年)10月16日	25
㉖ 世界文化遺産登録の意義	2015年(平成27年)11月20日	26
㉗ 山麓に広がる豊かな自然	2016年(平成28年)1月8日	27
㉘ 2月23日は富士山の日	2016年(平成28年)2月19日	28
㉙ 文化的・宗教的な価値	2016年(平成28年)3月18日	29

ジャンボ渡辺の学 富士山

日本の宝物・富士山が、世界の宝物になる可能性が高まってきた。6月にカンボジアのプノンペンで開かれるユネスコの世界遺産委員会で、富士山が「世界文化遺産」として登録されるかもしれないのです。

皆さんは、どのような気持ちで迎えられるか。観光振興による経済的発展への期待や、登山客の増加による環境悪化の懸念など、世界遺産登録後に起こる様々な「光と影」に、期待と不安の気持ちが入り交錯しているのではないのでしょうか。

過去に登録された地区をみると、観光客が激増して経済

「世界文化遺産」への登録



渡辺豊博さん

新たな制約に「覚悟」必要

わたなべ・とよひろ 1950年、秋田県生まれ。73年に静岡県庁に入り、農業基盤整備事業の計画実施などを担当。2007年に東京農工大学院連合農学研究所で博士号取得。08年から都留文科大大学院社会学部社会学科教授。富士山学を研究する。身長180センチ、体重100キロ。ニックネームは「ジャンボさん」。

的恩恵を受ける一方、ごみの増加など環境悪化の被害が拡大し、観光振興と環境保全との「共生」のあり方に対して、複雑な問題を抱えているケースが数多く見られます。

富士山の場合、登録後、どのような問題が起き、結果としてどのようなようになってしまおうのでしょうか。そのような将来像を、行政や市民は的確に予測・把握し、中長期的視点に立った恒久的・包括的な管理基本計画をまとめ、実効性の高い対応・対策を取っているのでしょうか。現在は、登録されることを優先した、行政主導・依存を推進する形になってはいませんか。

富士山が世界文化遺産に登録されるということは、信仰

・芸術・景観に関して富士山

に内在する類いまれな「普遍的価値」が、ユネスコが定めたクライテリア（評価基準）

に適合した結果として登録されるものです。すなわち今後、環境基準も含めて国際基準で富士山は評価されること

になり、当然、日本での慣行や制度の見直しが求められる

可能性もあります。世界遺産登録の目的は「開発の抑止」

であり、富士山に関わる多くの利害関係者には多様な制約

が新たに課せられることに同意した「覚悟」の証しでもあ

るので、富士山では「入山料」の導入が目ざされています。環境保全のための安定的な資金確保とともに、入山者数の制限にねらいがあると思

います。海外の世界遺産地区では、管理者の一元化が入山料徴収の前提条件。様々な管理者の思惑が交錯して徴収者が一本化されていない富士山で、実効性の高い対策となる

のか疑問です。

はたして富士山は、世界文化遺産としての登録が可能な「前提条件」や、国際的な「環境基準」が整っている山

なのでしょうか。美しい富士

山で、どのようなセーフティ

ーネットを構築して次世代に

引き継いでいくのか。その総合的・長期的・具体的な政策

立案や課題解決への仕組みづくりが求められており、市民、NPO、行政、企業、専門家ら、様々な分野から多くの関係者が集まり、多様な視点からの議論と検討の場が必要とされています。

富士山の世界文化遺産登録を通して、日本人の環境に対する「共生の知恵と行動」が試されており、秀麗なる富士山を次世代に確実に伝えていくよう、多様な問題を国民の間で共有、認識し、着実に解決していくことが「先決」

です。

◇

都留文科大で「富士山学」

を開講している私の視点から、原則月1回、富士山に必要とされる対策について、各地の世界遺産地区も参考としながら紹介、提案します。

2013年(平成25年)5月16日 木曜日



国連教育科学文化機関(ユネスコ)の諮問機関・国際記念物遺跡会議(イコモス)が、条件つきで富士山を世界文化遺産にすべきだと勧告しました。6月のユネスコ世界遺産委員会で正式に登録される見通しです。私は約10年前の自然遺産登録運動や富士山頂へのバイオトイレ設置などに関わったことがあり、世界遺産になると富士山に「開発制御」のセーフティーネットがかかる点で評価しています。

課題解決へ根本的議論を

今回の勧告は、富士山の「信仰」の山としての普遍的な価値が、世界的に認知されたことを意味しており、衰退してしまっている富士山信仰への「過去の評価」といえます。案の定、勧告後はゴールデンウィークでもあり、「富士山ファイバー」が起り、富士山周辺に観光客が押し寄せ、山梨県では交通渋滞が起きました。さらに山梨県内では富士スバルラインの夜間通行止めの提案が地元の首長からも出ています。静岡県では、除外を勧告された「三保松原」の景観問題を受け、消波ブロックの景観改善対策の検討や、官民総出で一日だけの大規模清掃の実施など、「その場のき」の対策が計画さ



渡辺豊博さん

専門家の「知」集める必要

世界遺産登録だけが目的と思われる「無秩序・無規制」の実態が明らかになりつつあります。本来、登録とは富士山の本質を日本人が再確認し、持続可能な環境保全への「スタート」になるはず。だが、登録が「ゴール」で、お祭り騒ぎと経済的恩恵への期待が優先されるという情けない様子が露呈しています。他の世界遺産地区では、登録後に想定されるさまざまな課題が議論され、課題解決のための施策が登録前に実施されています。一部は未実施でも、「管理計画」をつくることと今後の資金計画や役割分担が明確にされており、富士山の現状は見劣りしません。

この時点まで、富士山周辺で利害に絡む調整ごと、問題を点を棚上げにし、根本的な「各論」を詰めてこなかった、国や県の「責任」は重大でしょう。このままでは「2016年2月の世界遺産委員会において審査できるように保全状況報告書を提出するよう」というイコモスの勧告への対応が難しく、登録抹消で「危機遺産」に格下げられるおそれもあります。勧告では「文化的景観を反映した資産の全体ビジョン」「来訪者戦略」「登山道の保全手法」「危機管理計画」などへの具体的な対応策を求められています。

さらに、イコモスからは「国や県が作成した包括的保存管理計画への抜本的な見直し」「富士山信仰の巡礼道として統一感のある登山道の整備」「入山制限の検討と実施」「登山者増が引き起こしている流土への適切な対策事業の実施」「開発の制御(富士五湖等)への措置」なども求められています。たとえば「開発の制御」だけでなく、富士五湖周辺にある建物の高さ制限や色調に規制がかかり、土地の改変や開発にも制限を受けることになると思われま。どの指摘事項も、利害が絡み合い、山梨、静岡両県の事情も交錯して容易に解決できない問題ばかりです。 今後は、入山料の徴収や消波ブロックの改善、清掃活動などの小手先の対応ではなく、富士山の現場を知り尽くした環境NPOや地元の専門家による「仲介的NPO」を結成して、両県の総力をあげた、新たな「専門知・経験知」の人的ネットワークづくりが必要とされます。

(わたなべ・とよひろ 都留文科大教授)



カンボジアで開かれているユネスコの第37回世界遺産委員会で、富士山が世界文化遺産に登録されることが確実視されています。

地元では、多くの観光客が富士山周辺を訪れることで経済的波及効果が期待され、盛大な祝賀行事も各地で準備されています。

一方、山梨、静岡両県が検討してきた入山料の試験的導入も固まり、協力金として「千円程度徴収する方向で話が進んでいます。入山料の導入で、今後の安全管理や環境保全への問題が一気に解決したような雰囲気になっていきます。だが本当に、そんな安易

海外の世界遺産と決定的違い



渡辺豊博さん

一元管理の責任者不明確

なことで済むのでしょうか。

皆さんは、文化庁から公表された富士山に関するイコモスの評価結果と勧告概要をご存じでしょうか。「三保松原を除き、富士山を世界遺産一覽表に記載すること」や、精神性と芸術的関連性を反映させた資産名称に変更するよう求められました。昨年末のイコモスからの追加情報の要請に対し、国は、すでに、三保松原は除外せず、名称は変える」と回答しています。

ここまで厳しい条件が付けられた世界遺産地区を私は知りません。一般的には「登録延期」、最悪の場合は「不登

録」になるケースではないかと考えています。だからこそ、日本文化に根付いた、富士山への信仰や富士山の偉大さ、国際的な認知度を最大限に評価していただいた「親心だ」と深く感謝しています。イコモスは、緻密で体系的な現場調査・情報収集を踏まえ、国民があまり知らない富士山の「負」の実態・課題を正確に把握しており、多様な側面から根本的な改善・保全対策を要求してきています。

これは、富士山の管理計画の未熟さと不完全性に対する厳しい警鐘、怒りであり、今後の対応策に期待を込めた国際的な善意の「メッセージ」と解釈しています。さらに、最も重要な勧告内容を紹介します。「(3年後の)第40回世界遺産委員会において審査できるように、締約国に対して2016年2月1日までに世界遺産センターに保全状況報告書を提出するように勧告する。報告書には、文化的景観のアプローチを反映した資産の全体ビジョン、来訪者戦略、登山道の保全手法、情報提供戦略、危機管理計画に関する進展状況を提示するとともに、管理計画の全体的改定をも含めるように勧告する」これは「包括的保存管理計画」と呼ばれ、海外の世界遺産地区と比べても常識的で、世界標準の指摘です。だが、現実として、海外との決定的な違いがあります。一元管理を進めるための国家的な仕組みや「富士山庁」と呼んでいいような横断的な機能を持つ役所が存在していないことです。今

後策定される管理計画を全体的に取り切り、事故や災害などの場合、一括的・迅速に対応・処理できる「責任者」が不明確になっている事実です。今回は文化遺産ですから当然、「文化庁」が管理の全責任を負うこととなります。だが、管理範囲は山梨、静岡両県に及び、約7万坪という広範囲なものです。現実的に文化庁は管理を担えるのでしょうか。すでに両県に責任転嫁しているのではないのでしょうか。

入山料徴収など、登山者に安易に負担を強いるのではなく、富士山全域の開発抑止を目的とした「富士山立法」の制定や、語呂合わせではあります、2223億円の規模の「富士山基金」の創設など、国家的な観点から、大胆な施策の展開が必要とされているのではないのでしょうか。

(わたなべ・とよひろ 都留文科大教授)

ジャンボ渡辺の学 富士山

先月カンボジアで開かれたユネスコ世界遺産委員会を傍聴し、富士山の世界文化遺産登録決定の現場に立ち会いました。諮問機関のイコモスが、富士山と一体ではないとして構成資産からの除外を勧告していた「三保松原」が、逆転登録された歴史的な瞬間でもありました。

世界遺産決定に立ち会い

だが、その後、現場写真を含めて説明の多くが、現在の富士山における問題点・改善点についての指摘でした。「山麓の開発により巡礼道、神社、山小屋の関連性が認識できなくなっている。夏の膨大な登山者の来訪と、それを補助するための山小屋、ブルドーザー道、落石防止のコンクリート壁などが富士山の精神的な雰囲気と反している。富士五湖（特に山中湖と河口湖）は増加する観光と開発の圧力にさらされている。建物の規模、建設可能な場所、景観を山麓のホテルを含めてより強力に制限する必要がある」など、現場の実態を把握



渡辺豊博さん

多くの問題点議論が皆無

したうえで10項目以上にわたる厳しい指摘が続きました。内容を聞き、次に交わされる議論に大いに期待しました。しかし、残念ながら三保



富士山の世界文化遺産登録が決定した直後のユネスコ世界遺産委員会の会場。6月22日、カンボジアの首都プノンペン、渡辺豊博さん提供

松原の応援演説に終始し、約20分間にわたり、19カ国が賛同の意見を述べて逆転登録が決まりました。

問題点が指摘されているのに議論は皆無。おそらくロビ活動の成果だとは思いますが、会場には国や県の関係者だけが参加し、富士山の現実とは隔たりがある、お祭り騒ぎのような軽薄さを感じました。富士山は世界基準に照らし、大変難しい課題を背負ったことを行政や国民は認識しているのでしょうか。

今回、信仰の山として「過去の富士山の価値」が国際的に評価されたことから、ひとつの案として有料道路「富士スバルライン」などを閉鎖し、昔のようにふもとから歩く登山信仰の山に戻したらいいと思うのです。これが文化遺産として登録された意味だ

と考えています。富士山は当然「自然遺産」の価値もありますが、環境被害が改善されず、さらに拡大しています。この点も勧告で指摘され、改善への確な対応が厳しく迫られています。

富士山フィーバーが起り、例年をはるかに超える観光客や登山者が訪れています。過剰利用への対策が未整備で、さらに傷だらけの山になってしまっているのではないかと危惧しています。

極端なことを言いますが、しばらく富士登山はやめた方がいいのではないのでしょうか。遠くから眺め、富士山の本質と信仰の文化的な意味を学び、環境問題を認識し、どんな対策が必要とされているのか、富士山再生への管理計画を考えてみてください。日本人の環境再生への現実的な知恵と行動が、国際的な視点から試されているのです。

（わたなべ・とよひろ
都留文科大教授）



世界文化遺産登録後、初めて迎えた富士山の夏山シーズンは減りましたが、観光客が国内外から富士山周辺の構成資産や娯楽施設などを訪れ、旅館・ホテルの宿泊者数も増え、盛況を呈しました。経済的な波及効果は大きなものだったと思います。この盛況は続くことが期待されています。

「開発の抑止」へ課題山積

だが本当に手放して喜んでいて良いのでしょうか。世界遺産登録の目的は「開発の抑止」であり、課せられる新たな制約に同意する「覚悟」の



渡辺豊博さん

経済優先せず総合対策を

証しだと思います。山梨県側の富士スバルライン5合目の売店周辺にあふれている観光客や登山者の様子を見てみると、繁華街の雑踏と同じように感じます。海外の世界遺産の山々では絶対に見ることがない光景です。どこに世界基準に準拠した山の秩序と規範が存在しているのでしょうか。

今夏初めて入山料(富士山保全協力金)の徴収が実証実験されました。結果的には半分近くの登山者が千円を収めたようです。環境保全や安全

対策が目的とはいえ、登山者の「善意」に頼るその場しのぎの対策だと思えます。海外では入山料の徴収は当然で、罰則規定もあり、登山者すべてから強制徴収してしまっています。登山者数の制限・抑止対策のひとつにもなっています。

必要とされています。具体的には半分の登山道が千円を収めたようです。すべての登山道を測量調査して危険な場所や崩壊し

現実的に行政が対応すべき多様な施策・対策のほとんどが、手つかずのまま積み残しになっています。今後どのような手順と内容で多様な課題を解決していくのでしょうか。今こそ、長期的視点に立った総合的・専門的な対策が必要とされています。

を山小屋の宿泊者数を基準に決め、総量・入山規制の対策を進め登山指導・安全確保の

対策を図る。8月下旬に静岡側と山梨側の8合目まで登り、現場の実態把握・調査をしました。一番の驚きは、以前と比べて登山道が広がり、崩壊が進んでいることです。足場が悪く危険な登山道に昼夜を問わず多くの人が登山しており、世界で一番危険で無秩序な山だと強く感じました。海外の世界遺産の山では、手すりや登山道を保護するため、足場にボードを整備するなど安全対策を徹底しています。

（わたなべ・とよひろ 都留文科大教授）

ジャンボ渡辺の学 富士山

この夏、富士山8合目以上に登った人は昨年より8千人少なくなりました(環境省調べ)。山梨県側は1万人減の17万9千人、静岡県側は2千人増の13万1千人。四つの登山道の合計が最多だった7月14日には1万人が登りました。「信仰の山」への適正な登山者数だと思われませんか。登山者数は2008年から13年までの6年間、30万人前後。以前は20万〜25万人でした。近年の世界文化遺産登録への関心の高まりが、登山者数の増加にも影響し、環境被害をも深刻化させています。

過大で無秩序な登山者数



渡辺豊博さん

山小屋・トイレ…20万人適正

いることに他なりません。

8月下旬に吉田・富士宮間ルートを登山しました。6年前と比べて登山道が広がり、凹凸や侵食が激しく、斜面には落石の危険もある巨石が多く点在していました。30分進むのに30分以上もかかる場所もありました。下山者とのすれ違いや追い越しなどが頻繁に重なり、滑落などの危険も感じました。

これが、世界遺産に登録された山の登山道の実態かとあきれ、世界一「危険な山」と感じました。山梨、静岡県は入山料(保全協力金)の試験徴収やマイカー通行の規制強化などを進めましたが、抜本的な対策としては不十分です。9月には横内正明知事

が、適切な登山者数を算出し、規制を検討するという話をしましたが、具体策は示されていません。保全のためには「入山規制」の導入が必要不可欠です。4ルートの登山者数の時間帯別の動向や混雑場所などを総合的に分析し、適正な登山者数を算出しなくてはなりません。本来はこの夏、24時間態勢で多くの調査員を混雑箇所に置き、正確な実態把握や、登山者への聞き取りをする必要があったと思います。私が考える適切な登山者数を算出するには、4登山道の山小屋42軒の収容能力とトイレの処理能力から算出されています。将来的には、4

ルートは「ビジターセンター(管理施設)」を設け、登山者カードの提出を義務付け、正確な動向把握が可能となる仕組みを整え、常駐するレンジャーによる情報提供や登山教育の必要もあると思います。「弾丸登山」の抑止のためにも登山する時間帯を制限し、より厳しくシーズン外の登山を禁止するなど、罰則がある法律を整備する必要があります。

各ルートの登山者の動向が適正に管理できる新しい「コントロールシステム」があれば、事故への対応を含め、抜本的な保全の仕組みができていきます。富士山には利害を優先せず、長期的、総合的な視点と戦略を持った大胆な取り組みが求められています。

これは、富士登山者数の実態が、他の世界遺産地区や世界の山の環境保全基準と比べても、いかに過大で無秩序なものなのかを厳しく指摘して

この夏、富士登山者数の実態が、他の世界遺産地区や世界の山の環境保全基準と比べても、いかに過大で無秩序なものなのかを厳しく指摘して

これは、富士登山者数の実態が、他の世界遺産地区や世界の山の環境保全基準と比べても、いかに過大で無秩序なものなのかを厳しく指摘して

これは、富士登山者数の実態が、他の世界遺産地区や世界の山の環境保全基準と比べても、いかに過大で無秩序なものなのかを厳しく指摘して

わたなべ・とよひろ
都留文科大教授

夏の渡辺のジャンボ富士山学

夏山シーズンと世界文化遺産登録による富士山ファイバーが終わり、静寂につつまれた本来の富士山に戻りました。最近、富士山の話題や情報は激減し、人々の関心も加速度的に低下しています。山梨・静岡両県が今夏に試行した入山料(保全協力金)の分析・評価や、来年度以降への抜本的な保全・安全対策に対する対応は低調ながらも、来夏も入山料が徴収されることになりそうです。今のところ、ほかには対策の実施による劇的な変化や改善はありません。イコモスとユネスコ世界遺

世界遺産委勧告 低調な対応



渡辺豊博さん

保全・安全へ6項目の提案

産委員会から指摘された勧告事項に対し、真摯で現実的な議論と検討は、いつ、どこで、だれが責任を持って対応し、解決するのでしょうか。70回近く富士山に登り、実態を熟知している中で、心配で夜も寝られない心境です。両県による検討経過や内容から判断すると、複雑で多岐にわたる課題ゆえに解決は難しく、時間的制約や利害対立などもあり、2016年2月1日までの解決は無理ではないかとも感じています。そこで、イコモスが求めて

いる「保全状況報告書」に対する提案をします。

①「巡礼道の描出」(構成資産間の関連性の理解を促進するため、現在は使われていない巡礼道などを特定する調査研究)。必要なのは、山麓の巡礼道の位置・経路の描出で、文献及び現地調査で対応できます。

②「来訪者管理戦略」(適正な登山者数の維持などのための方針と手法)。上方の登山道の適正な利用には以下の具体策があります。登山者数の実態、平準化に関する調査▽マイカー規制に関する検討▽山小屋の宿泊状況などの実態調査▽安全登山のための方策と情報提供のあり方の検討▽利用者負担(協力金)に関

わる検討です。さらに、下方の巡礼道と来訪者の受け入れ施設や景観と開発が与える影響の制御についても考える必要があります。

③「登山道の総合的な保全」(登山道・山小屋・ブルドーザー道に関し、富士山の神聖さ・美しさと調和した保全の方針と手法)。具体的には、登山道の保全管理(パトロールや修繕)の状況把握と分析▽山小屋の改修の状況把握と風致景観への配慮▽救護所の状況と設置の検討▽ブルドーザーの運行状況の把握と頻度を最小限にするための検討▽山小屋トイレの実態と維持管理に関する検討▽発電機による環境への影響調査と負

荷軽減の検討です。

④「情報提供戦略」(ピジターセンターの整備。構成資産の関連性の示し方や各構成資産における解説の方針と手法)。これからの課題も少なくありません。世界遺産センターの整備や世界遺産ガイドの養成と活用、レンジャーの増員などです。

わたなべ・とよひろ
都留文科大教授



富士山の入山料(保全協力金)の徴収方法と夏山シーズンの延長問題が話題になっています。環境保全・安全対策については、具体的な議論がほとんどなされず、保全や安全の面からも「本末転倒」の議論に終始しているように感じます。

特に入山料については、利用者負担専門委員会の議論で、来年度は「夏山シーズン中、任意の入山料を5合目以上の登山者を対象に徴収する」という意見でまとまる方向になりました。

だが、徴収の前提となる使

本末転倒な入山料徴収議論

まず環境保全や安全が先



渡辺豊博さん

途目的や徴収対象、事業内容などの議論が不十分で、実施に必要とされる現場調査などは、ほとんどありません。徴収の議論はかりが先行し、現実的に何にどのようを使うのかについて、徴収側の「説明責任」が果たされていません。

山梨、静岡県が今年の入山料の試験徴収にかかった経費は、山梨県側は徴収額の約30%、静岡県側は約50%。来年24時間態勢で登山者全員から徴収すると試算では山梨側は徴収額の30%、静岡県側は85

%になるそうです。費用対効果を無視した不合理、非効率な議論、制度が通用するでしょうか。

一体、入山料の議論は何を目的としているのでしょうか。年間31万人、1日で1万人を超えらることもある登山者数。山体への負荷と危険性は拡大し続けています。まず必要なのは、環境保全と安全対策を優先した「入山規制」による登山者の抑制です。入山料徴収による「財源確保」は、保全対策の全体計画、総予算額が事業別、箇所別に明確化され、国や県、市町村による財源負担の割合、役割が定まった後に議論するべきです。

例えば、アメリカのヨセミ

テ国立公園では、入山料ではなく入場料として、公園の入り口で法律に準拠し、「強制的」に徴収しています。自家用車1台20ドル、徒歩・自転車は10ドル、バス26人乗り以上300ドルです。貴重な自然環境を歩く場合、別途8ドルを徴収しています。公園の95%を「原野法」により指定しており、宿泊を伴うトレッキングは「許可証」の取得が必要になります。各エリアの許可証の制限は、1ルート200人前後であり、52ルート、1日あたり1万1550人の「入山規制」が環境保全のために設定されています。

富士山には、こうした海外の世界遺産地区の制度を導入すべきです。具体的には①富

士山の範囲の明確化による整備区域の設定②登山道やトイレの実態調査を踏まえた改善対策の実施③環境への負荷軽減を前提とした適切な登山者数の設定④4登山道の1日の合計登山者数の上限設定による平準化⑤登山期間と時間の設定による入山規制⑥法定外目的税など税方式による強制徴収が可能となる新たな法律の制定⑦地元のNPOや専門家を活用した新たな管理運営体制の整備⑧レンジャーの育成と拡充による安全対策の徹底⑨入山規制を前提とした保全対策の全体計画の策定と合意形成⑩県を含めた利害の調整・仲介役となるNPOの配置など。「世界基準」への到達には難問が山積です。利害を超越した「抑止の知恵」が試されています。

わたなべ・とよひろ
都留文科大教授



新年を迎え、世界遺産登録後の2年目が始まります。昨年は富士山フイバーが起り、世界の山としての注目度も上昇、経済効果もありました。

しかし、ユネスコの世界遺産委員会から指摘された、6項目の厳しい勧告に対しては、実効性のある抜本的な対策は見えてきていません。次の夏に向けては、入山料(保全協力金)として5合目以上への登山者から任意で1人千円を徴収することでままりましたが、海外の世界遺産の山のように法的根拠や罰

世界遺産登録2年目の課題

現場の知識、結集し活用を



渡辺豊博さん

則規定はなく、オーバーユース(過剰利用)に対する登山者の抑止効果は期待できません。

さらに、山梨県と静岡県では開山日と閉山日がずれ、山梨側では7月1日〜9月14日、静岡側では7月10日〜9月10日となる見通しです。開山の神事など伝統文化の継承上、調整が困難な問題もあるとは思いますが、両県の思惑・利害が優先され、富士山の環境保全や安全対策を重視した包括的な対策への議論が不十分だと感じています。

こんなバラバラな対応で、富士山は守られるのでしょうか。

逆転登録が実現した静岡市の「三保松原」では、大型バスの乗り入れが急増しました。

車の排ガスなどによる松林の枯死や、複雑な管理態勢による放置松林の拡大、消波ブロックの排除が海岸保護かの議論など、登録後を見据えた対策が不十分だったため、問題が一挙に出てきています。

登録運動に奔走したNPO関係者は、このままでは三保松原が壊されてしまうと、管理の一元化や長期的な保全対策の策定を強く行政に求めています。

三保松原の現状は、富士山の今後を表すものではないでしょうか。2016年2月までにユネスコに提出する保全状況報告書には、権利者らの利益や立場を超えた実効性のある対策が必要不可欠です。そのためには、環境の保全、登山者の安全確保など、現場を的確に把握している市民が主体となった専門組織の設立が行政に求められます。その組織は新たな調整・仲介の役割を担うことになるでしょう。

私が20年近くかかわっている「グラウンドワーク三島」では、市民力や地域力を結集して、市民・NPO・行政・企業による環境再生やまちづくりを60カ所も実践してきました。長く現地で活動しているNPOは、長期的な視点で、ものごとを考えることができます。利害関係の調整だけで終わることなく、現実的で実効性のある対策を考え、提案する行政では難しいことです。地域総参加による貴重な河畔林の森づくりなどでは、グラウンドワーク三島が行政や地元住民らの調整役となり、市民主体で計画をつくりました。今では、市民やNPOが維持管理に主体的に関わっています。

現場を知り尽くした人々の経験知と実践知の結集、専門家のネットワーク化などが、これからの富士山には必要になっていきます。現場に長く携わっているNPOをもっと活用してもいいのではないのでしょうか。

(わたなべ・とよひろ 都留文科大教授)



富士山信仰に基づいて建てられた全国の浅間神社に祭神として祭られている「木花開耶姫命」は、「火の神」であり「水の神」でもあります。これは、太古の昔から噴火を繰り返し、天変地異と天災を及ぼす荒ぶる山・富士山に対しての鎮魂の願いと、地域の人々に命の水を供給する恵みの山・富士山に対する感謝の気持ちが進められています。日本の年平均降水量は1700ミリですが、富士山では2860ミリと推測されています。つまり、日本の平均の1.7倍近くの雨や雪が降っていることとなります。こうし

「水の神」としての信仰

た雨や雪の恵みを受けた、富士山の湧水量は1日当たり534万リットルと推計されています。1人1日400リットルの水を使うとすると、1日当たり1340万人分の水を富士山に蓄えているのです。富士山の周辺には山梨県内に100カ所、静岡県内に400カ所の計500カ所の湧水地があるといわれています。都留文科大がある都留市の十日市場・夏狩地区の湧水群も、環境省が選定した「平成の名水百選」に選ばれました。市内には一年中豊かで清らかな湧水が網の目のよ



渡辺豊博さん

枯渇する湧水現状把握を

うに流れ、水生植物のバイカモが水中で白いかねんな花を咲かせています。都留市の太郎・次郎滝では、噴火の痕跡が何層にも重なり合っている30近い崖の各層から湧き水が噴出して、迫力ある水のカーテンを形成しています。世界遺産に登録された「白糸の滝」にも見劣りしません。地質学的にも水理学的にも自然環境学的にも世界遺産としての価値を十分に備えた貴重な場所です。しかし、滝の付近には多くのゴミがたまり、湧水が流れる多くの川には配水管から雑排水が流れ込んでいます。近年、富士山周辺でも林業者や農業者の高齢化によって水源林が放置され、森づくりが停滞し、企業による宅地開発や

水源林の集中伐採が進んでいます。湧水地に対する地域住民の意識は離れ、利用者は減少しています。湧水地の枯渇や改廃、埋土、売却などが潜在的に拡大しています。歴史的な霊水で古くから北日本富士浅間神社の神水として引き水された「泉瑞」が、8年ほど前から枯渇してしまっただけでなく、上流部での水源林の伐採や湧き水のくみ上げなどが考えられます。水神様を祭る行事も次第に衰退し、水の山としての文化や歴史、風習、祭事が姿を消し、地域コミュニティの「心」のよきところが次第になくなってきています。

私は、2008年から、富士山周辺の湧水地のうち、150カ所の調査を実施してきました。多くの湧水地は現存していましたが、現場は草に覆われ、ヘドロが滞積し、水神さんも朽ち果てていました。農業用水や飲料水の水源の役割も失われたことから、地域から忘れ去られた存在になっていました。「水の山」としてあがめ、湧水を大切に守り育ててきた先人の思いを、今の私たちは的確に継承していると考えるでしょうか。今後、湧水は石油より上位の国家的な資源になると思います。「命の水」を守っていくために、富士山の湧水の豊かさに甘えず、各地に点在する湧水地や水源林の現状を把握し、問題点を認識して水を育む森づくりや水源対策などの取り組みが進むことを望みます。

(わたなべ・とよひろ
都留文科大教授)



富士山は「信仰の対象と芸術の源泉」として、その類いまれな普遍的価値が認められ、世界文化遺産に登録されました。25の構成資産の多くは、富士山信仰に関わる宗教的な行事や修行をする施設で、富士山の山体が信仰上の重要な対象になっています。県内に住む皆さんは、富士山の文化、歴史、宗教性、自然環境などについて、どのようなことを学び、体験してきましたか。

学校教育 どう学び何を体験？

登山含め学習の体系化を



渡辺豊博さん

富士への登山や登山道でのごみ拾い、バイオトイレ体験、樹海に投棄された産業廃棄物の実態把握などの「富士山学習」を採り入れてみてはどうでしょうか。全体的な富士山学習の副読本があってもいいと思います。

ただ、学校の先生自身が、富士山の登山経験も少なく、富士山の自然環境の現状や問題、魅力と不思議について、子どもたちに興味深く伝えていくことができるのかというふもとの心配です。日常的に実感している子どもたちでも、実際に登った経験があるのは10%程度だと聞いたことがあります。四季折々の富士山の自然美や富士山信仰の宗教的な意味を学ぶ機会もありません。地域の宝物の文化や歴史を学ぶことなしに、富士山を含めた故郷・地域への「愛郷心」はなかなか芽生えません。

昔の富士山は、富士講者らの登拝信仰を通して、人間力を鍛え、人としての生き方を主体的に考え、自ら精進するための修行の場で、教育の場だったと評価しています。「懺悔懺悔・六根清浄」を唱えながら、苦しさに耐え、遠く、江戸から徒歩で富士山を目指したのです。

大金と多くの時間を要してまで、人々は、なぜ、富士山に登ったのでしょうか。私は、この「富士講」の仕組みは、社会的な弱者が寄り添い、助け合う、相互補完・支援の「共助」の仕組みだと考えています。富士山登山を宗教上の目標に位置づけ、その実現のために人々が連携・協力し、富士山のご利益やパワーを享受し合う。絆と弱者の目線に添った共助の仕組みの重要性と有効性を体験することによって、人々の一体感を醸成させるための国家的な教育プログラムだったのでないかと分析しています。また、多様性に満ちた富士山の森林地帯を1歩ずつ登ることによって、自然美や神秘性、壮大さを実感することができ、自然界への畏敬の念を学んだのです。当時も一種の入山料を支払っていたともいわれ、登山者はし尿を処理するために箱を担いで登り、その後、中身を肥料として活用したと聞いています。まさに富士山登山を通して、自然と人間が共生していくための具体的な知恵・循環システムを学んでいたのです。

世界文化遺産登録の意味は、富士山を教育上の生きた教材として評価・活用することであり、登拝信仰を通して自然と人間との共生の知恵、共助の仕組みを学ぶことです。登山教育も含めた富士山学習の体系化と実践的な学習プログラムの作成と実施が、富士山の「防人」を育てるために必要とされています。

(わたなべ・とよひろ 都留文科大教授)

ジャンボ渡辺の学

富士山

1993年12月11日。鹿児島県の屋久島が世界自然遺産に登録されました。日本で最初の登録です。屋久島と比較して富士山を客観的に評価するために、先月、屋久島を現地調査をしました。

屋久島の面積の約20%、約1万坪のエリアが自然遺産の登録範囲です。原生的な天然林や際立った標高差による「自然美」と、高山を含む温暖帯地域の特異な植生が海岸線から山頂部まで連続して分布する「生態系」が評価され

屋久島から見る共通課題



渡辺豊博さん

観光客増と保全先進地に学べ

ました。年間4500リットルを超す豊富な降水量と海岸線から標高1936メートルの最高峰・宮之浦岳まで連続する山々。多様な動植物が重層的に密集した日本の秘境で、生きた自然博物館といえます。

しかし、50年代まではすさまじい乱伐と激しい自然破壊があり、樹齢数千年の縄文杉の群落が無造作に伐採されていました。島民が森の貴重性に気づき、山への意識変化があったことで保護運動が起り、今の状況が奇跡的に保全

されたのです。

自然遺産登録から20年間。年間約30万人が来島し、27万人が山岳部を訪問します。踏圧による裸地化の進行やゴミの投棄、利用施設の混雑や故障、利用環境の不衛生化など、富士山と共通する課題が山積みです。2000年以降でも、20件以上の遭難が発生し、死者や不明者も増加しています。

また、施設の「維持管理費の不足」も深刻です。し尿の搬出やトイレの維持管理、使用済み携帯トイレ回収などの経費確保を目的として、登山口で1人1口500円の募金を集めています。回収率は50%前後と低迷しています。

「屋久島町山岳部保全基金条例」に基づき屋久島町が募金収支を管理していますが、10年以降、登山者の増加に伴い、し尿の搬出量が2千万円を超えて赤字が拡大しています。

富士山では条例などの法的根拠もなく、任意で1千円の保全協力金(入山料)を徴収するようですが、今後、利用者負担や受益者負担、行政負担など保全管理のあり方が新たな検討課題といえます。

「山岳ガイドの質の確保」は、環境保全と観光振興の共生の仕組みをつくるためにも重要な課題です。

屋久島では観光協会に所属する山岳ガイドは162人います。20年前の8・5倍ですが、高額なガイド料や質の低下への批判が増大し、エコツアーリズムについてのガイドラインの策定が進んでいます。

富士山でも、安全で質の高い富士山ガイド・登山のための制度設計が必要です。

屋久島では山岳部の利用に関する「負のサイクル」に苦しんでいます。施設が充実して利用しやすくなると、観光客が増えます。しかし、利用体験の質は低下し、事故が多発して施設の維持管理費も増加します。

富士山では今後、屋久島の経験から見えてきた課題を先取りした戦略的マネジメントと保全管理のガイドラインの策定が必要です。

(わたなべ・とよひろ
都留文科大教授)

ジャンボ渡辺の学 富士山

世界文化遺産としてふさわしい富士山の保全管理のあり方を探るために、3月下旬、ニュージーランドの北島中部にあるトンガリロ国立公園を訪ねました。

この公園は、1990年に世界自然遺産に登録されました。ニュージーランド政府はマオリ族の宗教的、精神的な聖地としての文化的な価値を認めてほしいと要望。世界遺産委員会は新たに「文化的景観」の評価基準を作り、1993年に文化遺産にも指定しました。トンガリロ国立公園

トンガリロ国立公園に学ぶ



渡辺豊博さん

は、世界で最初の「複合遺産」になりました。

トンガリロ国立公園の保護地域は7万6千haに及びます。約40人のレンジャーが、登山道や山小屋、トイレの維持管理を行っています。ビジターセンターでは、観光客や登山者への情報提供や登山指導、環境教育を行います。政府がNPOと協働し、一括的な責任で保全管理しています。

公園内のナウルホエ山(2911m)は富士山に似てい

保全管理、地域との協働を

ます。昔から神なる山として、人の立ち入りが厳しく制限されてきました。富士山の文化的価値と酷似しています。ニュージーランドの環境政策は、自然保護省が環境管理と自然保全を一元的に担っています。マオリ族の文化を守る組織は、観光業とのバランスを考えながら入山禁止や制限を主張しています。開発と抑制の両立を念頭に、神の山としての本質を傷つけないよう、利用をマネジメントしています。



一方、日本では「神の山富士山」という意識が希薄です。感謝と畏敬の念の伝承と教育がおざなりにされてきました。両国の違いを見ると、ニュージーランドの文化的価値に対するプライドを感じます。トンガリロ国立公園のレンジャーと記念撮影する筆者(中央)。後方はナウルホエ山。筆者提供

す。ニュージーランドには14の国立公園があります。自然環境を保全管理するガイドラインや運営管理計画書は、10年に一度改訂されます。計画の決定には、地域の住民やコミュニティの合意が法律で決められています。提案された意見は自然保護省がまとめ、改定時に反映させなくてはなりません。

富士山では役所主導の施策決定が常態化しています。民意の反映は希薄です。今後、地域住民の意見を聞いて、登山者集中など過剰利用への対策や信仰など文化的意味を考えた管理計画が必要です。富士山に登らなくても、文化的価値を楽しめる仕組み作りも必要だと思っています。

(わたなべ・とよひろ
都留文科大教授)



皆さんは、富士山のトイレ事情をご存じでしょうか。登山者は50年以上、山小屋内に設置されているためこみごみの簡易トイレを使用してきました。夏山シーズンが終わると、便槽にたまったし尿を地表に排出します。周囲に悪臭を放ち、環境や景観に悪影響を及ぼしてきました。今でもこの痕跡が「白い川」となり、富士山の山肌を醜くへばり付いています。

この恥ずかしいトイレ問題を解決するため、NPOや行政、山小屋が連携し、2002年からバイオトイレなど

トイレの処理、費用は

登山者だけの負担、限界



渡辺豊博さん

「環境配慮型トイレ」の整備が始まりました。06年には山梨県側18カ所、静岡県側24カ所すべての山小屋に、計49基

のバイオトイレが設置されました。処理方式は、オガクズ式が多く、カキ殻浄化循環、燃焼式、杉チップ式などがあります。

しかし、多くの課題を抱えています。トイレ使用料はチップ制ですが、支払ってくれるのは利用者の半分以下で

す。維持管理費が補えていません。また、機能的にも、使うに従って処理能力が低下することや、保守点検の難しさ、交換が必要な廃棄物の処理に高額な回収費用がかかること、などの問題を抱えています。

今夏、昨年並みの約31万人の登山者が富士山を訪れると

すると、06年当時に25万人を想定した現在のトイレ対策はオーバーヒートしてしまっています。

国有地の利用税として売り上げの10%を重複課税してしましました。また、地元のNPOは、企業や個人から年間3千万円近い寄付金を集めて国立公園に資金提供しています。環境保全やマオリ族の文化・伝統の継承を計るためです。

世界遺産登録や自然環境のおかげで収入がアップした観光業者へ課税負担させることで、高額な維持管理費をまかなっています。国民に寄付を仰ぎ、国民総参加の仕組みも作っています。富士山のように、登山者だけに負担を募る「入山料」の仕組みはありません。

⑤ ニュージーランド・トンガリロ国立公園で、搬出される山小屋のトイレ汚物。分解処理は公園近くの下水処理場で行う⑥ 同国立公園の下水処理場。山小屋のトイレ汚物が処理される。後方は富士山に似た形のナウルホエ山。いずれも筆者提供



私には3月下旬、ニュージーランドのトンガリロ国立公園を訪れました。山小屋やロッジのトイレは、すべて「コンポスト方式」になっています。汚物を微生物に発酵・分解させる仕組みですが、容量が満タン近くになるとヘリコプターで搬出し、国立公園の近くの下水処理場で浄化処理していました。ヘリコプターの経費は1時間で20万円ほど。高額の費用がかかりますが、多様な資金確保の仕組みでカバーしていました。そのひとつが公園内で営業する観光業者への「課税」です。売り上げに対してスキー場では15%、ホテル・ゴルフ場では6%の納付義務を課していました。さらにスキー場には、

世界遺産として、開発の抑止と過度な利用の低減が求められています。富士山では今、登山者の制限とトイレ環境の整備が緊急の課題です。

わたなべ・とよひろ
都留文科大教授

ジャンボ渡辺の学

富士山学

皆さんは「富士塚」をご存じですか。富士山登山に行けない人のために富士講の信者が造った築山です。ミニチュア版の富士山といった位置づけです。全国に約870カ所あります。そのうち、東京都内に約100カ所、県内には20カ所あります。

富士講とは富士山信仰の組織です。江戸時代後期には「八百八講」といわれるほど多くの富士講が活動していま

「富士塚」ご存じですか

した。当時の富士山は女人禁制の霊山でした。遠方からの登山は体力が必要でしたし、多額の経費がかかりました。庶民には遠い存在でした。

そこで、誰にでも気軽に疑似登山をしてみたいと、富士山に行った信者が溶岩を持ち寄り、積み上げたものが富士塚です。浅間神社も祭られています。山頂には奥宮、中腹右手には小御嶽神社をあら



渡辺豊博さん

気軽に御利益分け合ろう心

わす石の祠、中腹左手には烏帽子岩、周辺には水の山を表す池を配置するのが基本形でした。

私は7月中旬、都内にあるいくつかの富士塚に登りました。JR山手線の品川駅から徒歩15分、品川神社の境内に



あるのが「品川富士」です。高さは15段で、都内の富士塚の中で最も高く、山頂からインボートリッジを見ることが出来ます。毎年7月1日に近い日曜日には、白装束をまとった信者がはだしで登り、山頂で行事を催しています。

JR中央線の千駄ヶ谷駅から10分ほど歩くと、1789年に築造されたとされる鳩森八幡神社の「千駄ヶ谷富士」の石鳥居が見えてきます。登山道は石鳥居から始まり、富士

⑤高さ15段の「品川富士」に続く溶岩積みみの登山道。東京都品川区北品川3丁目。1789年に造られたとされる「千駄ヶ谷富士」。

東京都内で最古とされている。東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目、いずれも渡辺豊博撮影

士五湖を模した池にかかる石橋を渡り、25歩で山頂です。高さは6段で、山頂には奥宮とともに霊水がわく金明水、銀明水が配置されています。登山道と下山道が別々に設けられ、巡礼路としての神聖さを醸し出しています。

ミニチュアの富士山ですが、登ってみると登山の感動と信仰の思いを味わうことが出来ました。そして、パワースポットと言われる富士山の御利益を、登山がかなわない多くの人々と分かち合おうとする助け合いの心を感じます。

この夏、身近にある富士塚を「登山」してみませんか。文化遺産としての富士山の信仰や歴史に関する価値を体験できますよ。

ジャンボ渡辺の学 富士山

富士山の山梨側の登山道「富士山吉田口登山道」が文化庁の「歴史の道100選」に選ばれたのは1996年です。江戸時代には、富士講信者の巡礼路としてにぎわった道です。現在の富士山観光は5合目から山頂にかけての登山に偏っていますが、こうした歴史の道にも注目してはいかがでしょうか。

吉田口登山道の整備

大石茶屋跡があります。緩やかな坂道を登ると馬返に着きます。富士山は山麓から頂上まで、①草山②木山③焼山の三つに区分されるのですが、馬返は草山と木山の境界でした。ここから先は聖域とされました。今も山小屋「大文司屋」や188年前に建立された石造鳥居、2カ所の山小屋跡があり、かつての霊山としての雰囲気を感じさせています。



渡辺豊博さん

「歴史の道」の魅力発信を

鳥居をくぐり山道を登ると、鈴原社(大日社)がある1合目に着きます。1530年の文獻「勝山記」にも登場



「馬返」に点在する石造物

する信仰施設で、以前は境内に鳥居や拝殿、本殿、手水鉢などがありました。こうした山小屋や信仰施設は、江戸後期の絵図「富士山明細図」や「富士山真景之図」にも描かれていて、富士講を裏証する歴史的な遺構です。



山小屋「大文司屋」前の石造鳥居
提供 筆者

しかし、1964年に富士スバルラインが開通し、車で93年に世界遺産登録された

5合目まで行けるようになりました。それ以降、吉田口登山道の登山者は激減し、山小屋の営業が困難になりました。かつてにぎわった巡礼路は荒廃し、老朽化した信仰施設や石造物は壊れたり消失したりしました。鈴原社の施設も今は閉鎖され、一部は壊れています。周辺にあった富士山信仰を示す多数の石碑も散乱しています。霊山としての巡礼路が、人々の記憶から消えていく危険に陥っています。

この巡礼路の拠点の街では、歩いたことを証明する手帳を受け取れます。礼拝堂を修復した無料の宿泊所も完備されています。この宿では、巡礼者の足を水で清める「洗足の儀式」が体験できます。この例のように吉田口登山道も整備し、山小屋や遺構を再建すれば、富士山の多様な魅力を世界に発信できて面白いと思います。

(わたなべ・とよひろ 都留文科大教授)

ジャンボ渡辺の学 富士山

晴天の10月26日、富士山の吉田口登山道を2合目の富士御室浅間神社まで登りました。紅葉の時期を迎え、鮮やかな色彩は言葉を失うほどの美しさでした。例年、1合目の馬返駐車場は混雑しているのですが、当日は登山客をほとんど見かけませんでした。御嶽山噴火の影響で、富士山噴火への懸念と不安が広がり始めていると感じました。

御嶽山噴火の教訓



渡辺豊博さん

美しい景観火山だからこそ

残る最も古い噴火は781年で、平安時代の「続日本紀」に記されています。平安時代には3度の大噴火を繰り返しました。中でも膨大な溶岩を噴出させ、今の青木ヶ原樹海を作った864年の「貞観噴火」は、史上最大・最悪の噴

火規模とみなされています。平安時代以降も、繰り返し噴火など火山活動の記録が残されていますが、1707年の宝永噴火の後、現在まで300年以上も不気味な沈黙が続いています。宝永噴火では、噴煙が上空20キロに達して大量の火山灰や火山岩を広範囲に降らせ、地域を荒廃させました。

山」の思いを植え付けてきました。住民は、噴火が静まることを切に願いました。静岡県富士宮市の富士山本宮浅間大社は紀元前27年、垂仁天皇の時代に、噴火のつめ痕を憂えて山霊を鎮めるために建立されたと伝えられています。また、貞観噴火の翌年、天皇の勅命によって建立された河口浅間神社(富士河口湖町)は、拝殿の正面に「鎮爆」の大きな額が掲げられて



①静岡県富士宮市の富士山本宮浅間(せんげん)大社の境内に置かれている約100キロの火山弾。いつの時代にどこで採集されたかは不明という②富士河口湖町の河口浅間(あさま)神社に掲げられている「鎮爆」の額(いずれも筆者提供)

います。富士山噴火の「鎮火祭」が、今も4月と7月に行われています。

富士山の美しい景観美は、過去の度重なる噴火によって形成されたものです。富士山は世界文化遺産に登録されましたが、そのベースには類いまれな火山としての自然美も併せ持っていることを忘れてはなりません。

富士山噴火の特徴は、前兆現象としての地震の多発化です。今後、私たちは危機意識を持ち、想定される被害をイメージすることが欠かせません。行政に対しては▽火山防災対策に関わる広域避難態勢の整備や事前訓練の実施▽噴火予知体制の強化▽気象庁から発信される火山情報の解析力と地元への情報発信、などが望まれます。

(わたなべ・とよひろ
都留文科大教授)

ジャンボ渡辺の学

富士山

今年、日本各地で火山の噴火が相次ぎました。9月27日には長野・岐阜県境の御嶽山が突然、噴火しました。死者・行方不明者は63人に上り、戦後最悪の火山災害となってしまいました。また、熊本県の阿蘇山で噴火が続くほか、福島・山形両県にまたがる吾妻山や北海道の十勝岳でも今月、気象庁が噴火警戒レベルを、平常を示すレベル1から、火口周辺への立ち入りを規制するレベル2に上げました。

登山者の安全確保 NZでは

人・掲示板 手厚い情報提供



渡辺豊博さん

なかでも最も危険視されているのは火砕流による被害です。1991年には、長崎県の雲仙・普賢岳で大火砕流が発生し、消防関係者

など43人が犠牲になりました。富士山でも万一に備えた対策は必要です。

きっかけに、登山者の安全を確保する危機管理対策が強化されました。

今年3月、ニュージーランドの世界遺産・トンガリロ国立公園を視察しました。夏には約80万人が、冬は約50万人のスキー客が訪れる観光地です。ここでは、2012年にトンガリロ山が噴火したのを

公園内の湿地帯の道には滑り止め付きの擬木加工された樹脂ボードが設置され、急な道には手すりがあり、歩きやすい工夫が施されています。静岡・山梨両県にまたがる富士山のすそ野の面積は約7

万坪ですが、トンガリロ国立公園の面積は約8万坪。そこに毛細血管のように約150の登山コースがあり、それぞれに山小屋やトイレ休憩所が数カ所ずつ配置され、自然保護官が常駐しています。気象や噴火など、登山の安全に関する情報を提供しています。非常時には、多数の道が避難路に変わります。

コースは一方通行で、危険区域や避難方法、警告信号を出す「掲示板」が要所に設置されています。最寄りの山小屋の位置▽避難経路▽火砕流や噴石の影響範囲などの説明が記されていました。太陽光発電による蓄電池付きの電光掲示板もあり、最新情報を掲示していました。

道路管理や売店などの国立公園職員と火山専門家の約800人には、火山観測機器の変化や噴火リスクに関する最新情報が、24時間態勢で携帯メールで届けられます。情報を共有する彼らは、火山学専門知識の研修も定期的に受けていました。

富士山では噴火に備え、山麓住民の避難対策は進んでいます。しかし登山者の安全に関する対策はまだ不十分です。登山者の命を守るために、山小屋に避難所機能を持たせる▽シェルターの設置▽自然保護官の増員▽緊急警報発令の態勢整備▽伝達手段の整備などが必要だと思います。



①トンガリロ国立公園のカルデラ湖②登山道の各所にある避難警告掲示板③いずれもニュージーランドのトンガリロ国立公園、著者撮影

わたなべ・とよひろ
都留文科大教授



世界文化遺産に登録された富士山では、環境保全など様々な対策や制度設計などは、環境省や文化庁などの国の機関か、山梨、静岡両県によって実施されています。富士山の現場で発生している様々な問題に対して直接的に関わりたいと希望するNPOやボランティアが、気軽に参加、協力できる仕組みは不十分です。一方、アメリカでは国の予算不足を補うためにNPOが活動しています。昨年12月下旬、NPOと行政との協働の仕組みを学ぶために、米国のワシントン州のマウントレーニアやカリフォルニア州のヨセミテ、アリゾナ州のグランドキャニオンなどの国立公園を訪れました。

NPOの活動 米では

国の予算不足補い寄付も



渡辺豊博さん

シアトルでは、「ワシントン・パークナショナル・フアンド」が1993年に設立さ

れました。マウントレーニア国立公園など三つの国立公園で資金調達し、毎年約7千万円を国に寄付しています。主な資金調達の方法は、個人からの寄付金が1400万円▽レーニア山などが描かれた車用ナンバープレート販売収益

が1700万円▽宿泊施設で1泊あたり3ドルの任意募金が8百万円▽企業からの寄付金が1900万円などです。国に寄付することで税制上の優遇措置が受けられます。

NPOは運営資金も寄付でまかない、ボランティアを募ったり、登山道の修繕や貴重動植物の保護活動、後継者育成プログラムなどを実施したりしています。

ヨセミテ国立公園の「ヨセミテ管理委員会」は1923年の設立。年間約4百万人が訪れる公園内の清掃活動や自然観察会などを実施しています。

グランドキャニオン国立公園には、年間約450万人が訪れます。32年設立の「グラ

ヨセミテ国立公園で自然観察会を開くボランティアレンジャー(左端) 渡辺豊博さん提供

ンドキャニオン愛護会」は、野生動物の保護や施設整備、観光ガイドサービス、地域の歴史文化の啓蒙活動などを行っています。ピジターセンターのガイド役は、人材育成プログラムで育成されたボランティアレンジャーが担っています。

富士山には現在、多様で複雑な課題があります。行政や専門家だけの取り組みでは限界があります。NPOやボランティアによる、新たな人的・資金的・専門的なネットワークづくりが補完的な仕組みとして必要とされています。富士山を描いたナンバープレートへの資金提供や富士山ファンドの創設、支援ボランティアの人材育成プログラムの構築、NPOが運営するピジターセンターの開設など、NPOと行政との新たな協働の仕組みづくりが求められています。

(わたなべ・とよひろ 都留文科大教授)



ジャンボ渡辺の学 富士山の学

富士山を抱える山梨、静岡両県は来年2月までに、「神聖さ」「美しさ」を後世に引き継ぐ取り組みを、ユネスコの諮問機関イコモス(国際記念物遺跡会議)に報告しなければなりません。富士山を守る人材育成やプログラムについて、昨年末、米国の国立公園で自然保護官たちから聞いてきました。彼らは日本が適切に対応できるかを心配していました。

彼らは「国や県の対応だけでなく、国民の英知と専門性を結集すること」「長期的な視野から様々な利害を調整すること」「人材育成の大切さ」などを助言してくれました。現場の声には説得力があります。

カリフォルニア州のヨセミテ国立公園で自然保護官として長く働いたマイケル・ロス氏(79)は、現在、NPO法人ヨセミテ管理委員会に所属し、同公園のビジターセンターに常駐しています。若者向けの後継者育成プ

人材育成 米の国立公園に学ぶ



渡辺豊博さん

実地体験の積み重ね重要

プログラムの講師を務めたり、公園の歴史や環境を子どもたちに紹介する絵本を作ったり、世界各国から訪れる学者を案内したりしています。

ロス氏の動きは速く、自分の庭のように公園内を歩き回り、動物や鳥をすばやく発見します。木の葉を食べるミユールジカやセコイアの大木に穴をあけるキツツキを望遠鏡で見せてく

れました。絶壁から落下するヨセミテ滝では、氷河期からの地質学的な歴史と、19世紀後半にダム建設を止めた自然保護運動家ジョン・ミュラーの役割を熱く語ってくれました。

ロス氏は「観光促進と環境保全という両立が難しい課題をかためるためには、専門的な現場の知識の継承が必要。登山や環境に関して教育すれば、子どもたちはゴミを捨てなくなるし山は汚れない」と力説していました。

アリゾナ州のグランドキャニオン国立公園で、ボランティアで自然保護活動に取り組む男子

学生(26)に偶然出会いました。現在、カリフォルニア工科大学で地質学を専攻していて、時間があると子どもたちを相手に、地質学教室の講師を務めています。

彼の将来の夢は、同公園の自然保護官として勤務すること。そう思わせたのは、小学生の頃から参加したトレッキング、キャンプ、清掃活動、環境教育などの実地体験だったそうです。今後、富士山を守り伝えるには、現場での人材育成がポイントだと感じました。

(わたなべ・とよひろ 都留文科大教授)



ヨセミテ国立公園で、自然保護運動家のジョン・ミュラー氏について語るマイケル・ロスさん



花崗岩(かこうがん)の大渓谷が広がるヨセミテ国立公園=いずれも渡辺豊博さん撮影

2015年(平成27年)4月17日 金曜日

ジャンボ渡辺の学 富士山

私が中学2年生だった約50年前の夏休みに、友人とふたりで富士山頂まで10日間かけて徒歩で往復した経験を、2回に分けてお話しします。

当時の私の住まいは静岡県三島市。以前から学校近くを流れる狩野川の環境に興味を持っていました。上流から河口の沼津港まで歩き、河原の石や植生、魚の種類などを調べていました。

今度は、毎日眺めている富士山の伏流水の流れに沿って歩いてみたくなりました。伏流水は駿河湾に湧き出しているといわれています。そこで、狩野川河口の千本浜海岸

50年前の夏休み 海から頂上へ



渡辺豊博さん

残っていた富士講の風習

を出発し、富士山を往復して、駿河湾に突き出ている約1kmの小さな半島の「大瀬明神の神池」をゴールに定めました。神池には富士山の伏流水が湧き出しているとする説があります。

駿河湾に湧き出した富士山の水を、逆に山頂の水源地に返してみたいと考えました。そこで、駿河湾の海水を自宅にあった20リットルのポリタンクに注ぎ、友人と交代でしょいこで背負って歩き出しました。山麓を進み、須走口登山道から山頂を往復する約80kmを、10日かけて歩く計画です。

私は身長が180cmあり、持久走が得意で体力にも自信がありました。でも、無理やりに誘った友人は「こりゃ修行だ」とぼやいていました。

途中の裾野市や御殿場市辺りをとぼとぼ歩いていっていると、驚くべきことが起こりました。近所の人たちが「どうした。この辺りはかつて、「富士講」に代表される富士信仰が盛んな土地柄でした。子どもに白装束の衣装を着せ、一緒に頂上を目指す伝統がありました。私たちのことを「信仰心のある中学生だ」と思ったようです。



山梨県側の吉田口登山道。現在も昔ながらの道が残っている。左は筆者、右はグラウズンドワーク三島提供

「富士山に登るの?」「どこに泊まるの?」「お金はあるの?」と次々に声をかけてきました。「海水をお山の頂上まで運ぶ奇特な中学生がいる」と、口コミで広がっていたようです。

この辺りはかつて、「富士講」に代表される富士信仰が盛んな土地柄でした。子どもに白装束の衣装を着せ、一緒に頂上を目指す伝統がありました。私たちのことを「信仰心のある中学生だ」と思ったようです。

「私の家に泊まれ」という人まで現れ、10泊のうち6泊を、そうした方々にお世話になりました。豚カツやすき焼きなどの豪華な夕食が出され、集まってきた親戚や近所の人たちが、私や友人のポケットなどにお金をねじ込んできました。1万円くれた人もいました。当時としては相当な金額です。しかも「頑張ってきな」と言うだけで、名前も教えてくれない人ばかりです。合計で約50人から10万円以上を預かりました。

夕食の席で、富士山に関する色々な話を聞きました。山頂で「金明水」と名付けられた井戸水を飲んだらがんが治ったという話から、山頂で霊を見たという話までありました。

見知らぬ登山者をもてなし、登れない自分の代わりに登拝という修行の御利益を登山者に託す「富士講」の風習が、約50年前はまだ残っていたのです。今回は、頂上を極めて帰ってきた私たちを、熱烈に歓迎してくれた様子を紹介します。

わたなべ・とよひろ
都留文科大教授

ジャンボ渡辺の学 富士山学

前回は、中学2年の私が友人とふたりで駿河湾の海水20リを背負い、海沿いから歩いて富士山山頂を目指す話を紹介しました。今回は、山頂を経由してゴールに至る後半の話です。

海水のポリタンクは重く、両肩に食い込みました。こんなとっぴな挑戦を考えた自分の発想にあきれ、途中でやめてしまおうと何回も思いました。

しかし、多くの登山者から励まされ、やっとのことで山頂にたどり着き、ポリタンクの海水を山頂にまきました。

「神池」に山頂の雪解け水流す



渡辺豊博さん

そして、奥宮に参拝し、山麓の住民にお願いされたお札を買いました。疲れが溶けていくような達成感と充実感で心が満たされました。この時、富士講とは登山の苦しさやつらさを乗り越えてこそ実感できる「体験型の信仰」だと、子どもながらに理解できました。

富士山の伏流水は駿河湾に湧き出していると考えられていました。その道筋をなぞろうと、「お鉢」と呼ばれる火口付近の残雪をポリタンクに詰め、ゴールと定めた静岡県沼津市の「大瀬明神の神池」

「体験型の信仰」に充実感



駿河湾の大瀬崎にある「大瀬明神の神池」。富士山の伏流水が湧き出ているとされ、海に囲まれているのに淡水だ。静岡県沼津市、伊豆半島ジオパーク推進協議会提供

に戻すことに決めました。下山では、金剛杖を身体を支えに使い、背負子を体に密着させて歩くと楽にポリタンクを担ぐことができました。何事もお札を届けました。富士山の

利益を受けたい住民のなかには、私の身体に触ったり、顔をなめ回したりする人までいて驚かされました。パワースポットの富士山が発する「気」を、吸収しようとする信仰心が富士講の原点・意味であることを学びました。

その後のゴールまでの道のりも長かった。駿河湾越しに見える雄大な富士山の絶景を眺めながら、ひたすら沼津市の海岸線を歩きました。友だちは旅をやめ、ひとりぼっちになりました。やっとのことで大瀬崎にたどり着き、「神池」に富士山頂の雪解け水を流し入れました。私にとって、10日間かけて富士山と駿河湾がつながった瞬間でした。富士講の信仰心を体験し、富士山が身近な存在になりました。

わたなべ・とよひろ
都留文科大教授

ジャンボ渡辺の学 富士山学

皆さん、世界文化遺産登録から3年目を迎えた富士山に登ってみませんか。山梨県側は7月1日、静岡県側は7月10日が山開きです。

何げなく登るだけでは、富士山を知ったことにはなりません。富士山が活火山であることに注目して、その痕跡を探してみてもどうでしょう。噴火の驚異を身近に感じられるはずです。

富士山には4本の登山道があります。最も痕跡が残っているのは静岡県側の富士宮口登山道です。8合目以上で周囲を見回して下さい。大人は

活火山の富士山



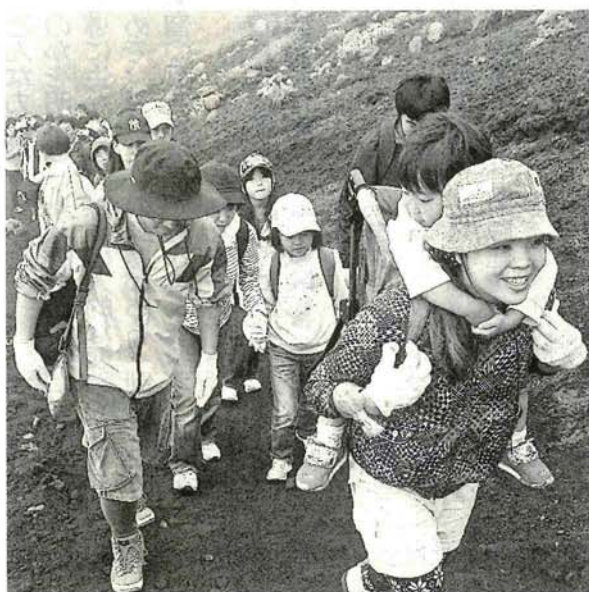
渡辺豊博さん

登山中、噴火の痕跡にも注目を

どの大きさの黒い火山弾が地面に突き刺さっています。流線形の石の表面にはひだがあり、石の造形のように見えま

す。突き刺さっている部分は1センチ以上あるでしょうか。こんな石が平安時代の貞観噴火(864年)、宝永噴火(1707年)の際に火口から飛んできたのです。

山頂火口の周辺にも生々しい痕跡が残されています。測候所があった剣ヶ峰(標高3776メートル)へは、馬の背と呼ばれる急な尾根を登ります。右は山頂火口に続く急斜面、



6合目にある宝永火口周辺を登る親子連れ=2011年8月、静岡県御殿場市、渡辺豊博さん提供

左も大沢崩れに続く急斜面。身がすくむかもしれません。が、足元に注意しながら進んで下さい。
赤、黒、褐色、灰色の4色によるしま模様は足元で観察できます。噴火の噴出物が、成分や冷え方の違いで色分けされたものです。鉄分が多くて急激に冷やされると赤く、ゆっくり冷やされると黒くなると考えられています。

山梨県のみなさんは吉田口登山道に登ることになります。登りきった火口が見える場所です。引き返す登山者が多いのですが、体力に余裕があるなら本山の山頂である剣ヶ峰まで足を伸ばして下さい。「大内院」と呼ばれる山頂火口は、直径約800メートルあります。「お鉢巡り」と呼ばれている山頂の火口縁を一周するトレッキングコースの所要時間は約1時間半です。今は水蒸気の噴気もなく、おとなしく見える火口ですが、ここも御嶽山や口永良部島と同様に暴れた歴史があったことを想像して下さい。

ただひたすら山頂を目指すだけでは噴火の痕跡を見逃してしまいます。周囲を見渡して、活火山の富士山を体験して下さい。

(わたなべ・とよひろ 都留文科大教授)

2015年(平成27年)9月4日 金曜日

渡辺の学 ジャンボ富士山

夏山シーズンに約30万人が集中する富士山のトイレ事情をお話しします。「信仰の山」だった昔、登山者はし尿を持ち帰りました。1964年に富士スバルラインが開通し、5合目まで車で行けるようになると状況は一変。タンク式トイレにためられたし尿は、8月末の閉山時に「神聖な富士山」の山肌へ垂れ流されました。

お金がかかる環境保全



富士山頂のトイレから流されたし尿とトイレトペーパーが、白い川のように山肌に残されていた。2002年7月、本社へりから

2002年夏に設置された杉チップ式バイオトイレ。富士山頂、渡辺豊博さん提供

2001年、登山者や地元



渡辺豊博さん

トイレチップに協力して

の強い要望で、富士山頂にバイオトイレが設置され始めました。私が事務局長を務めていた「富士山クラブ」が先導し、06年までに49基のトイレが整備されました。

バイオトイレは、有機物をバクテリアに分解させます。バクテリアを繁殖させる素材に、おがくずと杉チップ、カキ殻を使う3種類があります。軽油で燃焼処理する方法

もありません。全部の設置費用は約10億円かかりました。それ以外にも、1基あたりの年間維持管理費が数百万円かかっています。その費用を捻出する苦勞が今も続いています。現在、トイレ設置者は利用者に、使用1回に200〜300円のチップをお願いしています。保全協力金(入山料)とは別の「支払いのお願い」ですが、これはなかなか登山者に理解されていません。チップの徴収率は5割前後と低迷しています。資金不足から、おがくずやカキ殻の入れ替え、燃焼物の廃棄処理などが滞りがちです。

富士山の環境保全にはお金がかかります。世界文化遺産にふさわしいトイレに改善するため、トイレチップに登山者の理解と協力を得なくてはなりません。今こそ日本人の登山の良識とマナーが問われています。

(わたなべ・とよひろ 都留文科大教授)

ジャンボ渡辺の学 富士山

富士山は11日、昨年よりの5日早く初冠雪しました。富士山に降り注ぐ雪や雨が、裾野にもたらす水の恩恵を紹介します。

私のふるさとの静岡県三島市は、市街地のあちこちに富士山の湧水が湧き出し、「水の都」として知られています。市立公園「楽寿園」にある「小浜池」もそのひとつ。面積約5千平方メートルの湧水池です。

1960年代を境に、「水の都」の風景が大きく変わりました。工場が進出し、宅地の造成が始まって、大量の地下水がくみ上げられるようになりまし。そのため、「水の都」も湧水の状態が目立つようになりまし。

水の恩恵と文化の継承

今こそ、湧水池の保護を



渡辺豊博さん

今秋、小浜池は久しぶりに満水に近い水位を回復し、「水の都」の原風景を取り戻しています。水位復活の原因は、7～8月に日本列島を襲った台風と集中豪雨です。富士山に大量に降った雨が、湧水として勢いよく湧き出しているのです。

地元では生活感覚から、「山麓で降った雨は70～90日で伏流水として湧き出してくる」と言われています。その言葉通りの現象が起きています。

市内には、他にも白滝公園や菰池公園、源兵衛川、桜川など、「水の都」の観光名所がいくつもあります。どこも例年だと湧水状態の時期が



①満水になった小浜池 ②14日水が枯れた小浜池 ③2014年10月、いずれも静岡県三島市、渡辺豊博さん提供

長く、川や池の底の溶岩が見えています。今年は、7月下旬から徐々に水位が上がり始めました。源兵衛川では、川

沿いの散歩道が水没するほどです。山梨、静岡両県の富士山麓にある多数の湧水池は、富士

山と地下でつながっていると
言われています。体にたとえ
れば湧水は「血液」です。血
液の状態次第で、湧水池の表
情は変わってしまいます。

私は3年間、忍野村、富士
河口湖町など富士北麓の市町
村で、47カ所の湧水池を調べ
ました。

湧水池はかつて、地域の飲
料水や農業用水の水源として
重宝されていました。ところが、
今では多くが水枯れし、
ゴミや生活排水で汚されてい
ます。富士吉田市の北口本宮
富士浅間神社の手水場の水源
だった「泉端」は、7年ほど
前に枯れてしまいました。忍
野村忍草の「鶴ヶ池」は、草
に覆われてどこが水源かわか
らない状態です。

今こそ、湧水池の保護が必
要です。次世代に水の恩恵と
文化を継承するため、地下水
のくみ上げ規制や、水源の保
全などの対策が求められてい
ます。

(わたなべ・とよひろ
都留文科大教授)

ジャンボ渡辺の学 富士山学

富士山の世界文化遺産登録から約2年半が経過し、過熱気味だった富士山人気は落ち着きを取り戻したように思います。ここで改めて、富士山の価値と登録の意義をふり返りたいと思います。

「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」。これが2013年6月、世界文化遺産に登録された時の正式名称です。「世界の宝物」として評価されたのは、信仰の山であり、芸術のセンスを刺激する美しい景観を併せ持つ、という2点でした。万葉の昔から、「不二山」(ふたつとない美しい山)、「不尽山」(素晴らしさの尽きない山)と書かれてきました。

世界文化遺産登録の意義



渡辺豊博さん

信仰と芸術に大きな影響

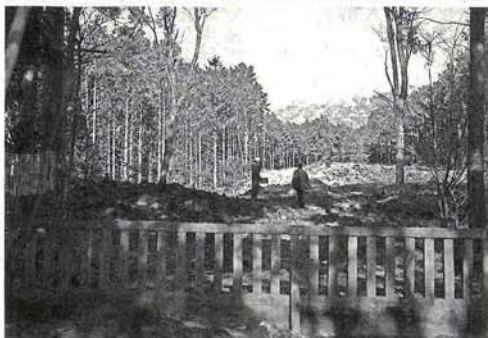
25カ所ある構成資産の一つ、山宮浅間神社(静岡県富士宮市)には、本殿に当たる建物がありません。富士山を望む遥拝所に、長さ約1.5kmの細長い火山弾が置かれているだけです。遠くに見える富士山そのものがご神体で、噴火が治まることを願った古代の信仰の形をとどめています。

同市内の村山浅間神社は、境内に、仏教と神道の施設が共存しています。米国やニュージーランドの自然保護官が案内したことがあるのですが、イスラム教とプロテスタントが共存するような状況に驚いていました。明治時代に全国で廃仏毀釈運動が進み、

仏教の分離が進められました。しかしこの神社では、地域の人たちが「どちらも正しい、必要だ」という価値観で守り抜いたそうです。以前調べたことがあるのですが、山梨・静岡両県の山麓



白装束で富士山頂まで登った富士講の信者たち。2006年8月、渡辺豊博さん提供



山宮浅間神社の遥拝所から富士山が見える。2013年1月、静岡県富士宮市山宮

には、合わせて約150カ所の宗教団体施設があります。多くの人が富士山を崇拜し、自身を投影して「生き方」や「人間とは何か」を考える対象物としてとらえてきたのです。神聖な山なので、登る際のごみ・し尿の持ち帰りは当然でしょう。

萬飾北斎の富嶽三十六景や横山大観の日本画、岡田紅陽の写真などに代表される富士山の芸術作品は、多くの人を魅了してきました。富士山ほど、多くの人の芸術的センスを刺激した対象は他に無いと思います。絵を描きたい、詩に詠みたいなどと、人々に思わせてきました。

こうして考えると、「世界の宝」は大切にすべき大きな存在だとわかります。平安時代の貞観噴火(864年)の際には、時の天皇が噴火を鎮めようと神社を造らせ、徳川家康も噴火を恐れ、8合目以上の領地を富士浅間神社に寄贈したといわれています。

富士山は、単に大勢の観光客に来てもらい、観光収入を上げるための存在ではありません。信仰の対象、芸術の源泉としてあった大きな存在の意味を、改めて考えてもらいたいと思います。

(わたなべ・とよひろ
都留文科大教授)

ジャンボ渡辺の学 富士山

富士山の5合目までを覆う豊かな森は、私たちに自然環境の魅力と役割を教えてください。山麓にはスギやヒノキの人工林が多く見られますが、山梨県側の青木ヶ原や静岡県側の水ヶ塚、西日塚などから登ると、シイやカシなどの照葉樹による「丘陵帯」がまず広がります。さらに登ると、ブナやミズナラ、アカマツなどの「低山帯」が現れ、シラビソやダケカンバ、カラマツなどの「亜高山帯」へと続きます。5合目から頂上までが「高山帯」です。背の低い低木類が、低温や強風、不安定な火山性土壌の環境に耐

山麓に広がる豊かな自然



渡辺豊博さん

えて生きています。富士山自然誌研究会の調査によると、こうした四つの区分に約1600種類の植物が生息しています。標高で気象条件が異なり、森林の様相も変化します。これを「垂直分布」と呼んでいます。また、静岡県の調査によると5合目周辺では、日本で暮らす約100種類の哺乳類の42種類が確認されています。ニホンカモシカやヤマネのほか、広葉樹林帯にはニホンイタチ、ニホンリス、ムササビが、針葉樹林帯にはオコシヨ、ツキノワグマ、テンなど

5合目までの登山道お勧め

青木ヶ原樹海の森について学ぶ子どもたち。2013年8月、鳴沢村、渡辺豊博さん提供



が暮らしています。鳥類も日本野鳥の会の調査で100種類以上が繁殖しており、渡り鳥を入れると約170種類が確認されています。日本の豊かな自然が、円錐形の富士山に密度が濃く集

まっています。この豊かさが、富士山最大の財産といえます。

ところが、来訪者の多くが、豊かな自然がある山麓を車で通過し、「はげ山」の頂上を目指します。本来の豊かな自然を体験するために、県内なら精進口登山道や5合目までの吉田口登山道など、裾野の登山道や散策路を歩くことを勧めます。

ミズナラやブナなどの広葉樹は森の保水力を支え、富士山の豊かな地下水の源です。私たちの暮らしを支えている富士山の自然環境に関心を持つために、四季折々の森に出かけてもらいたいと願っています。

(わたなべ・とよひろ
都留文科大教授)

ジャンボ渡辺の学 富士山学

2月23日は「富士山の日」。

「富士山の恵みに感謝し、保護と適正な利用を図ろう」と、5年前の県条例で定められました。県内では、写真展、映画祭、花火大会、雪祭りなど、記念行事が多彩です。

私は、多くの小中学生が富士山の現場に出かけ、NPOによるゴミ拾いや植林活動、エコツアー、構成資産巡り、地質や動植物専門家の研修などを体験し、「富士山学習」の日にすべきだと考えています。

ニュージージーランドの取り組みを紹介し、自然と文化の面で世界遺産に登録されているトンガリロ国立公園について、具体的な環境保護や登山教育が行われています。オークランド市内の小学校では年に数回、児童が登山用の携

2月23日は富士山の日

トイレ・ゴミ問題：保全学ぶ日に



渡辺豊博さん

帯トイレを身につけて登校します。立ったまま用便を済ませ、紙おむつみたいなものです。最初は多くの児童が「気持ち悪い」と訴えるそうです。

校内の便所は当日、使用禁止。児童は、仕方なく携帯トイレで用を足し、何回も新しいものにはきかえる作業を繰り返します。使い方と処理方法を学びます。

同時に、し尿を自然環境に垂れ流すとどんな悪影響を与えるかを、授業で知ります。「携帯トイレの使用は登山者の義務と責任」と理解する

ことで、児童は携帯トイレ着用への抵抗感が小さくなった、と先生から聞きました。他にも、児童は靴の裏についた外来植物の種が森に侵入し、固有の生態系を壊してしまうことも学びます。靴裏の洗浄に気を配るようになるそうです。

私は児童に、富士山の現状を説明しました。夏山シーズンに多数の登山者が集中し、山小屋などのトイレで、し尿処理に多額のお金がかかっていること。山麓にごみが不法投棄されていること、などです。児童から「どうして日本人は携帯トイレを使わないの？」「ごみをどうして山に捨てるの？」と質問が相次ぎました。先進国の日本で、世界文化遺産の富士山が汚されている現実が信じられない様子でした。



忍野八海で、ホトケドジョウ繁殖池を観察する子どもたち＝2015年1月、忍野村、筆者提供



青木ヶ原樹海を散策するツアー参加者たち＝2015年1月、富士河口湖町、筆者提供

私は、主宰しているNPO法人「グラウンドワーク三島」の活動で、青木ヶ原樹海ツアーや、忍野八海で希少魚類の観察会を開いています。冬も、子どもたちに富士山の自然を体験してもらっています。

富士山の日も、そんな環境保全について学べる日にしたいのではありません。

わたなべ・とよひろ
都留文科大教授

ジャンボ渡辺の学 富士山

3年間にわたり、世界文化遺産に登録された富士山の多様な魅力や価値、そして課題をお伝えしてきましたが、今回が最終回です。

富士山の現状を見て感じるのは「日本人は富士山を世界の宝として、守り伝えていく覚悟があるのか？」ということとです。世界文化遺産登録後、国内外から多くの観光客や登山者が押しかけるようになりまし。登山道の荒廃や登山中の事故の増加、山麓のごみ放置などの問題が未解決のままです。

世界文化遺産登録はゴールではなくスタートです。美しい富士山の環境を守るため、行政や観光業者などに任せきりにするのではなく、地元住民やNPO、企業も巻き込んで

文化的・宗教的な価値



晴天に輝く富士山=15日、富士吉田市新倉



復活した清流で遊ぶ子どもたち。石を動かすとサワガニが飛び出てきた=2015年8月、静岡県三島市、渡辺豊博さん提供



渡辺豊博さん

世界の宝、守る覚悟はあるか

手前みそですが、身近な自然環境を復活させた例のひとつに、私が主宰するNPO法人「グラウンドワーク三島」の活動があります。かつて「水の都」といわれた静岡県三島市は、富士山からの湧水が地元の企業によって工業用水として大量にくみ上げられるようになりまし。湧水は減り、水辺の環境が汚れていきました。きれいな故郷を取り戻したいと、市民有志が源兵衛川のごみ拾いを始めたのは1991年のことです。

で知恵を結集させることが大切です。観光振興や経済的な発展だけが優先されてはいけません。富士山に関わる人々が利害で対立するのではなく、協調する必要があります。

かつて「水の都」といわれた静岡県三島市は、富士山からの湧水が地元の企業によって工業用水として大量にくみ上げられるようになりまし。湧水は減り、水辺の環境が汚れていきました。きれいな故郷を取り戻したいと、市民有志が源兵衛川のごみ拾いを始めたのは1991年のことです。

25年たった現在、5月下旬には千匹以上のゲンジボタルの乱舞が見られます。夏休みには、子どもたちが橋から川に飛び込む歓声が響きわたります。

また、環境再生は観光振興にもつながりました。静岡県の調査では、2014年度の三島市の観光交流客数は約620万人と、20年前の約174万人から大幅に増えました。そして地方都市で目立つ商店街の空き店舗は、三島市の中心地ではほぼゼロです。末永く美しい富士山の環境を守るため、私たちも富士山頂への登山だけでなく、文化的、宗教的な価値を幅広く学び直していきましょう。富士山がかげがえのない存在とより理解できれば、愛情が増すはずです。ご愛読ありがとうございます。 〓おわり

わたなべ・とよひろ
都留文科大教授